

金子健治 指揮

東京リコーダーオーケストラ

TOKYO RECORDER ORCHESTRA

MODERN COLLECTION 2019



2019.9.29 MS ヤマハホール

●主催 東京リコーダーオーケストラ ●マネジメント 髙重本音楽事務所

ごあいさつ

本日は、東京リコーダーオーケストラ“MODERN COLLECTION 2019”に御来場頂きまして、誠にありがとうございます。

1985年に結成し、様々なコンサートやワークショップを開催してまいりましたが、今回は、2010年カザルスホールでのガラコンサート以来、久しぶりのフル編成での公演となります。若手のリコーダー奏者、そして結成当時には無く、ほんの数年前まで手に入れることが出来なかったサブコントラバス(コントラバスのオクターブ下の音域)を加え、新たな可能性を追求する一步を踏み出すコンサートになればと思っております。

今回取り上げることになった作曲家は、皆さん同世代であり(勿論バッハ以外)、東京リコーダーオーケストラの初期メンバーの世代とも被っております。国の違いや、作曲する立場、演奏する立場の違いはありますが、同じ時代にリコーダーという楽器に出合い、魅せられて、それぞれの立場で可能性を追求してきたことは、変わらない共通点であると思います。

ここ数年、作曲家のスコアにもコントラバス、サブコントラバスが独立したパートとして登場するようになってまいりました。これからの展開が楽しみです。無数にある現代のリコーダー作品の中の一部ですが、今夜のコンサートでリコーダー合奏の魅力、これからの可能性を皆様にも感じ取って頂けたら幸いです。

金子健治

金子健治 PROFILE



リコーダーを上杉紅童、花岡和生の両氏に師事。また、古楽の公開講座に於いて、K. オットエン、W. フォン・ハウヴェ、H.M. クナイスの各氏にレッスンを受ける。1982年、83年、全日本リコーダーコンクール・アンサンブル部門に於いて最優秀賞受賞。NHK教育テレビ「トウトウ・アンサンブル」「歌えリコーダー」にレギュラー出演する。教材、ビデオ・CDの制作、梁邦彦、福山雅治等多くのミュージシャンのCDに参加。またTV番組のテーマ音楽等でオカリナ、ゲムスホルン(角笛)、クルムホルン(ダブルリード)、ホイッスルも担当。著書に、全音楽譜出版社「いきいきリコーダー」シリーズ、「リコーダーアンサンブル・ピース」、「リコーダー四重奏で楽しむ」シリーズ等。現在、「東京リコーダーオーケストラ」指揮者、「東京ブロックフレーテ・アンサンブル」、手作り竹楽器の音楽隊「竹鼓舌(ちこたん)」を主宰。



Program

The Bloomberg Codex
ブルームバーグ・コーデクス

Glen Shannon (b. 1966)
グレン・シャノン

1. Aria 2. Recitative 3. Fugue

Praeludium und Ciacona
プレリュードとシャコンヌ

Klaus Miehling (b. 1963)
クラウス・ミーリンク

英國戀物語エマ より

梁 邦彦 (b. 1960)
arr. Kenji Kaneko

1. Silhouette of a Breeze 2. Solitude 3. Menuet for EMMA
4. EMMA 5. Memory 6. Nostalgia 7. Curiosity

< 休 憩 >

Swings and Roundabouts
ブランコと回転木馬

Andrew Challenger (b. 1950)
アンドリュー・チャリンジャー

Prelude and Fugue A minor BWV543
プレリュードとフーガ イ短調

Johan Sebastian Bach (1685–1750)
ヨハン・セバスティアン・バッハ
arr. Kenji Kaneko

“REIWA” African Suite No.28
『令和』アフリカ組曲 第28番

Sören Sieg (b. 1966)
ゼーレン・ジーク

1. The Emperor comes 2. The Girl at the Window 3. Best Wishes from Africa !



Program Note

ブルームバーグ・コーデクス

1966年、ニューヨーク生まれの作曲家・リコーダー奏者のG. シャノン、2重奏から7重奏、またリコーダーオーケストラまで、多くのリコーダー作品を書いている。初期のリコーダーオーケストラ作品ではコントラバス(バスのオクターブ下)のパートまでが書かれているが、近年では、そのまたオクターブ下のサブ・コントラバスが使われている。

あらゆる時代の音楽様式に精通しており、ルネッサンス風、バロック風、古典風など、厳格なまでにその時代のスタイルを踏襲しつつも、パロディーに留まらず、その中で自身の音楽表現を存分に楽しんでいるようである。

作品の特徴として触れなければならないのは、ニューヨーク生まれということが大きく影響していると思われるが、スウィングでの演奏が指定されている曲が存在することであろう。一見、バロック風のフーガであっても、それをスウィングで演奏するとなると曲調は一変する。この辺りが彼の自由な発想から出る魅力であろう。このスタイルで作曲された「ピーナツ・バター」「ジャズ風前奏曲とフーガ」を聴いたサン・フランシスコ在住のリコーダー奏者、ブルームバーグ氏の委嘱により2009年に作曲されたのが、今回取り上げた「ブルームバーグ・コーデクス」である。バロック時代、バッハやテレマンのカンタータのスタイル「アリア」「レチタティーヴォ」「フーガ」から成り、ジャズ風に演奏されていく。即興的な部分であっても緻密に絡み合い、独特の高揚感を味わうことができる。様々な編成の作品がある中、敢えて彼の代表作と断言していい4重奏編成のこの曲を取り上げることとした。

プレリュードとシャコンヌ

作曲家、チェンバリスト、音楽学者であるK. ミーリンクは、1963年にドイツのシュトゥットガルトで生まれ、パーゼル・スコラカントルムにおいて古楽とチェンバロを学び1988年にディプロマを取得、フラウブルグ大学において1993年に音楽学の博士号を取得している。250曲程ある作品は、室内楽からオーケストラ、ポップミュージックまで多岐にわたっており、音楽学者らしい音楽的知識の幅の広さをうかがわせる。

リコーダー作品に目を向けると、前記のG. シャノンがそうであったように、それぞれの時代の音楽様式を自身の作品に取り入れ、ドイツ人らしく忠実に再現しつつも、自らのスタイルを貫いている作品が多い。2001年に作曲され、メック社のリコーダー・ピースとして出版された3重奏曲「ドイツの童謡による変奏曲」により日本でも名が知られるようになった。興味深いのは、有名な「木々は緑に」の旋律を共に主題としてあげている「ブラウニング組曲」と「木々は緑に」による変奏曲」である。前者は厳格に一貫してバロック時代の組曲風に、後者はテーマが現れる度に、中世風、ルネッサンス風、バロック風、古典派風、現代風へと次々と移り変わっていくという、高度な遊びをしており、まるで時代時代の音楽スタイルを弄んでいるかのようでもある。

2011年に作曲された「プレリュードとシャコンヌ」は、アルト(2パート)、テナー、バス、グレートバス、コントラバスの独立した6声部から成る。低音の厳かな二短調の音階から始まる「プレリュード」と、対照的にアップテンポで躍動感のある「シャコンヌ」、2つの形式の中で、どのように展開させるか、作者の腕の見せ所でもある。

英国戀物語エマ

1960年に東京で生まれた梁邦彦は、幼少期よりピアノを学び、学生時代1980年頃から、浜田省吾をはじめとする多くのポップ・ミュージシャンのキーボード奏者、作曲家、プロデューサーとしてレコーディング、ライブ活動に参加する。1985年に都内大病院の医師として勤務するも、一年で音楽活動を再開し、その後はジャッキーチェン主演映画「デッドヒート」の音楽監督を皮切りに、テレビ・映画音楽の作曲、ポップミュージシャンへの楽曲提供・プロデュース、自らのソロ活動など、その活躍は華々しい。

1996年、ユニバーサル・ミュージックよりアルバム「The Gate of Dreams」でソロ・デビュー、その後「In to the Light」以降の

アルバムでは、大編成のロンドンのオーケストラ“ロンドン交響楽団”“ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団”“ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽”と共演している。一昨年の韓国・ピョンチャン冬季オリンピックの開会式・閉会式にて音楽監督を務めたことは、記憶に新しい。

東京リコーダーオーケストラとは、1999年品川教会グローリア・チャペルでのライブ(本年も12/6に小編成で開催)、2000年天王洲アイル・アートスフィアでのライブ、2006年ソウル世宗芸術ホールでのクリスマス・コンサートなどで共演している。

アニメの分野では、NHKの「十二国記物語」「彩雲国物語」、民放の「テガミバチ」「英国戀物語エマ」等の音楽を担当。今回演奏する「英国戀物語エマ」は、森薫原作の漫画をアニメ化したもので、19世紀イギリス、ヴィクトリア王朝時代のメイド“エマ”と上流階級で育った“ウイリアム”との恋の物語、第一幕が2005年、第二幕が2007年に放送されている。作曲者の指示により、この中から7曲がリコーダーの楽曲として劇中で使われ、演奏は東京リコーダーオーケストラが担当している。本日は、この7曲全曲が演奏される。

ブランコと回転木馬

1950年、イギリスのケントに生まれたA. チャリンジャーは、幼少期よりリコーダーを通して多くの音楽に触れ合うことが出来た。後にオーボエ、ピアノを学び、ケンブリッジ大学では音楽学位を取得するが、この幼少期の、リコーダーを演奏することで得られた貴重な音楽体験は、その後の彼の活動に大きな影響を及ぼしている。数年間の教職を経て、リコーダー・アンサンブルの指導者となるが、子供たちの音楽の可能性を広げたいという思いから、1980年代よりリコーダーの作曲を始めることになる。

日本では、オリエル・ライブラリーのシリーズで出版された「Ballad, Blues and Riffs」(1986)、「Spring Dance」(1987)、「Three Miniatures」(1992)の3曲により、その名が知れることとなるが、特に、楽曲としては最初の作品となる「Ballad, Blues and Riffs」は、明解な構成、リズムとメロディーの巧みな絡み合い等、現代の奏者の感性にフィットし、紹介された当時から大人気となり、多くのグループによって演奏され、現在でも重要なレパートリーとなっている。

この「ブランコと回転木馬」(原題“Swings and Roundabouts”)は、2012年、イスラエルのO. ゴラン氏の委嘱により作曲され、クファールサバ・リコーダー・アンサンブルにより初演された。作曲家自身が作品の難易度を記しており、この曲は、数少ない最高難易度「非常に難しい」となっている。1971年に、イギリスの作曲家G. ウィンターズが、「カンヴァセーションズ」という高難度の作品を作り、日本でもいくつかのグループが取り上げているが、複雑な旋律の絡みや対話形式など、作風に多くの共通点を見出すことが出来る。この作曲家の作品は、この他に「5つの遊び」以外には日本ではあまり知られていないが、子供向けの教則本、曲集などを多く出版しており、年代から考えても、幼少期のチャリンジャーに何らかの影響を与えたと考えても不思議ではない。

タイトル通りに曲は2つの部分から成る。「ブランコ」は、ゆったりとしたスウィング(8分の12拍子)で演奏され、近代的な和音の平行移動により緊張感を高めている。このようなスタイルの演奏では、同音の反復、跳躍音に自然に音程をしゃくり上げる奏法が用いられるが、この曲では細かな動きまで装飾音として記されている。「回転木馬」は、4分の5拍子で書かれていて(実質は一貫して8分の3拍子×2+4分の2拍子)、目まぐるしく移り変わる旋律ラインは、回転木馬に乗りながら会話を楽しんでいるようでもある。作曲家によると「エンディングに向けてチャイコフスキーがちらっと特別出演する」そうである。

プレリュードとフーガイ短調 BWV543

J.S. バッハ(1685~1750)は、23歳から32歳まで過ごしたワイマールにおいて、オルガン曲のほとんどを作曲している。宮廷の礼拝堂オルガニストとして迎えられた彼は、宮廷楽団にも参加し、当時人気のあったヴィヴァルディをはじめとするイタリア音楽に触れることが出来た。ここで大きな刺激を受けたことは容易に想像できる。それまで手本としてきたブクステフーデら北ドイツ楽派の重厚な響きと、イタリア的な明快な協奏曲の形式が交じり合い、独自の世界が開花していった時期といえる。

BWV543の「フーガイ短調」は、この時代の初稿が残っており、単独で「フーガイ短調 BWV944」とされているが、後のライブツィット時代に「プレリュード」と共に演奏されるようになったと思われる。

「プレリュード」のほとんどは、即興的な単旋律（分散和音、音階）と持続音から成る。減音程（ディミニッシュ）を多用し、北ドイツ楽派的な重い響きであるが、対照的に「フーガ」は短調でありながら、明るく透明感がある。

“REIWA”～アフリカン組曲第28番

1966年、ドイツ生まれのS. ジークは、幼少の頃からバイオリン、ピアノ等を学び、家族でリコーダーのアンサンブルも楽しんでいたようである。青年期には管楽器、打楽器の奏者、またコーラスグループのヴォーカリストとしての活動の記録も残っている。作曲家としての記録は、22歳の「子供の情景」による変奏曲からはじまる。本人も言っているように、この頃から好んで変奏曲が作られている。一つの旋律への溢れ出る思い、イメージーションが、いくつもの変奏曲となって表出しているであろう。

彼の名を初めて目にしたのは、1996年に書かれメック社より出版された「PinaYaPhala”～アフリカ組曲第2番」である。居住地あるハンブルグの寒い時期に、暖かいアフリカで過ごす機会が増え、そこでの印象、刺激を音楽にするようになっていった。

今回初演となる“REIWA”も、遠いアフリカの地から思いを馳せて作曲された。ソロパートのアルト（ソプラニーノ）以外は、テナーからサブ・コントラバスまでの低音が主体となっている。

この作品の初演にあたっての、作者本人の寄稿文（中略）

Reiwa は私のアフリカ組曲第28番です。今回の日本の改元に関わる儀式と新元号について知り、日本はテクノロジーにおいて世界最先端でありながら、最古の伝統との固い結び付きがあることに、大変感動しました。本当に称賛に値することです。

3つの楽章は、それぞれ異なる時代と場所が舞台です。第1楽章は、“The Emperor comes”

この楽章は、平成天皇が国民へ最後の挨拶を述べた4月30日の退位の儀式を表現しています。陛下のスピーチの内容には心を動かされました。この楽章では、これまでの歩みを振り返っています。

第2楽章は、新しい元号「令和」の元となった、8世紀の和歌集である万葉集の序文についてです。「初春の令月にして気淑く風和ぎ梅は鏡前の粉を披き蘭は珮後の香を薫らす」（時あたかも新春の好き月、空気は美しく風はやわらかに、梅は美女の鏡の前に装う白粉のごとく白く咲き、蘭は身を飾った香の如きかおりをただよわせている）私はこれを読んで、時代は8世紀の早春のころ、若い日本の女性が早朝窓際に立ち、蘭の香りの中、梅の花を見上げ、柔らかな風を感じつつ澄んだ空気を吸っている、そんな景色を思い浮かべました。このような事を第2楽章では表現しようと試み、“The Girl at the window”と題しました。

第3楽章は、いよいよ時代と場所が変わります。

日本は新しい時代を迎え、世界中の人々が、令和が佳き時代となることを願っています。アフリカのとある村で、人々が集い、歌い踊っている姿と、日本の未来に向かってゆく姿を重ね合わせ、それぞれの音楽のスタイルで佳き時代を願っている様子をイメージしました。そこで、この楽章を“Best Wishes from Africa!”と名付けました。

皆さんがこの音楽を気に入ってくれば幸いです！

PROFILE



安井 敬 (コンサートマスター)

中学生時代よりヨーロッパの古い音楽に興味を抱き、身近にあったリコーダーを手に取り、本格的に演奏法を学ぶ。飯室謙、大竹氏に師事。1977年、フランス・ブリュッヘン氏来日時の公開講座にソロ部門代表として参加。1978年、オランダ・アムステルダム・スヴェーリック音楽院に入学した。室内楽はもとより、様々なスタイルによる演奏を行う。ティンホイッスル演奏者としても様々な分野で活動を行っている。



渡辺 清美

桐朋学園大学音楽学部演奏学科古楽器科 (リコーダー) 専攻卒業。同大学研究科修了。「二子玉川のリコーダー教室～ Love Recorder」主宰。東京リコーダー協会講師。「リコーダーコンサート 青葉」、「コンサートミノーレ」指導・指揮者。主なCD「ノッキー組曲」、「スーパーリコーダーカルテット Vol. 3」。著書「リコーダーが上手くなる方法」。



浅井 愛

東京都調布市出身。上野学園大学音楽学部卒業。東京藝術大学大学院修了。ロータリークラブ国際親善奨学生としてミラノ市立音楽院に留学。リコーダーを島田暁子、田中せい子、山岡重治、濱田芳通、D・ブラジエッティ各氏に師事。上野学園大学音楽学部リコーダー講師。趣味はラグビー観戦にマラソン。ウィスキー検定3級取得。



福岡 恵

上野学園大学音楽学部器楽科リコーダー専門卒業。山岡重治、太田光子、島田暁子の各氏に師事。大学卒業に際し、皇居内桃華楽堂での御前演奏会に出演。現在、東京リコーダー協会、読売文化センター錦糸町、東急 BE 青葉台、宮地楽器小金井 ANNEX・市川、聖蹟桜ヶ丘・調布リコーダー教室各講師。『リコーダーアンサンブル ラルベルティーナ』メンバー。



河村 理恵子

桐朋学園大学音楽学部古楽器科卒業。同大学研究科修了。リコーダーを肥塚賢津子、島田暁子、山岡重治、花岡和生の各氏に師事。NHK 教育 TV「うたえりコーダー」「趣味悠々」等に出演。ラ・ストラダメンバー。海の近くの大人ののためのリコーダー教室「Kamakura 婦人」主宰。鎌倉市在住。



味澤 明子

アンサンブルを中心に演奏活動をおこなっている。最近では“小学生から大人まで一緒に楽しめるリコーダー合奏”に興味を持ち、「若松リコーダー隊」を主催。府中市より平成22年度～30年度の9年連続で教育委員会表彰を受けている。創作楽器グループ「竹鼓舌」メンバー、よみうりカルチャーセンター、宮地楽器音楽教室、東京リコーダー協会 各講師。



松浦 孝成

アンサンブルを中心に様々なジャンルで演奏活動を行っている。国際交流基金派遣公演、韓国・ドイツツアー、指揮者として「目黒リコーダーオーケストラ」を率いて台湾公演を行うなど海外活動も多数ある。また全国各地でレッスンをこなしている。第5回全日本リコーダーコンテスト独奏部門で金賞。CD、教本の著書がある。



細岡 ゆき

上野学園大学リコーダー専攻卒業。リコーダーを山岡重治、リコーダーに加え、中世、ルネサンス、バロック演奏解釈を濱田芳通、ヒストリカル・ハーブを西山まりえ、声楽を阿部早希子、各氏へ師事。近年は、リコーダー奏者、兼、歌手として、バロック・オペラ、NHKB5 クラシック倶楽部などへ出演するなど活動の幅を広げている。



榊 仁美

リコーダーを安井敬、庄司祐子両氏に師事する。学生時代はリコーダーアンサンブルのクラブに所属し、多くのコンテスト、コンクールに出場。2012年の全日本リコーダーコンテストでは金賞及び、最優秀団体に贈られる花村賞を受賞。現在は東京リコーダー協会ならびにトヤマ楽器製造(株)の講師として、東日本を中心に小学生等への講習会を行っている。



庄司 祐子

リコーダーを安井敬、吉澤徹の両氏に師事。1994～96年、全日本リコーダーコンテスト金賞受賞。全国各地、及び海外での演奏会、学校音楽鑑賞教室などの演奏活動を行う他ラジオやNHK教育テレビ出演など幅広く活動。クラシック、ポップスなどジャンルを問わず CD 参加多数。アイルランドの笛、ティン・ホイッスル奏者としても活動。



川端 りさ

オランダ、デン・ハーグ王立音楽院古楽科にてリコーダーを R-M. フェルバーヘン、P. ファン・ヘイゲン各氏に師事。リコーダー教授者ディプロマを得て卒業。NHK 教育テレビ「趣味悠々」出演。教科書「中学生の器楽」(教育芸術社)に掲載。横浜国立大学非常勤講師として、音楽教師を目指す学生達にリコーダーの演奏法と指導法を教えている。



早崎 靖典

東京コンセルヴァトアール尚美 研究科ピアノ専攻卒業。'82、'83年、全日本リコーダーコンクール・アンサンブル部門にて最優秀賞を受賞。国内でコンサート、レコーディング、テレビ、FM ラジオ放送出演の活動を行う他、海外では韓国、ドイツ、エストニアで60回以上の公演を行い、地元紙から好評を得る。



安井 マリ

フェリス学院短期大学音楽科卒業。リコーダーを大竹尚之氏に師事。フルート、リコーダー奏者として演奏活動に参加するほか、ティンホイッスル、アイリッシュフルート奏者として数多くのライブやイベント等に出演。レコーディング参加多数。東京リコーダー協会、池袋コミュニティカレッジ、朝日カルチャーセンター等にて講師を勤める。



増永 奏

5歳よりリコーダーを北山隆氏に師事。全日本リコーダーコンテスト金賞、他受賞。2006年ファーストリサイタル開催。以降はオーケストラや合唱との共演、ポピュラー音楽のライブなど様々なジャンルの活動を展開。神戸大学卒業。現在は東京リコーダー協会、トヤマ楽器製造(株)講師としてリコーダーの普及活動を行っている。



宍倉 法子

洗足学園音楽大学クラリネット科卒業。クラリネットを角田晃氏、リコーダーを高橋塚司氏、金子健治氏に師事。アンサンブル「スピカ」「ピロリン」メンバー。主に神奈川県平塚市で指導、演奏活動をしている。NHK教育テレビ「ふえはうたう」リコーダー」出演。東京リコーダー協会講師。



川名 由比

リコーダーを金子健治氏に師事。小学校在学中から全日本リコーダーコンテストに多数出場し金賞及び各賞を受賞。リコーダーアンサンブル「Piccola Picori」、THE CONSORT COMPANY、「東京リコーダーアンサンブル」のメンバーとして、様々なコンサート、レコーディングに参加している。

■ 東京リコーダーオーケストラ プロフィール

1985年、全日本リコーダーコンクールにおいて最優秀賞を受賞したメンバーを中心に、在京のソロ、アンサンブルで活躍中のリコーダー奏者が集まり結成される。

プロフェッショナルなリコーダーオーケストラとして、コントラバス・リコーダーを加えた大編成によるリコーダー合奏の魅力を追及する。

1986年より全国各地でコンサートを開催。特にシリーズで開催されていた「モダンコレクション」「オルガン作品集」では、多くの新曲、新編曲を紹介。また、公民館、国立社会教育実践センター(旧社会教育研修所)などにてレクチャーコンサートを開催してきた。

1988年 デビューアルバム LP「リコーダー合奏の魅力」をリリース。

1999年 アントレ古楽シリーズより CD「セビーリャ」を、2003年には同シリーズより CD「トッカータとフーガ 二短調」が全国発売される。

2003年 台湾にてリコーダー合奏に関するワークショップを開催、また、国家音楽庁にてコンサートを開催し、好評を博す。

2005年 2007年、TVアニメ「英国戀物語エマ」(梁邦彦 作曲)のレコーディングに参加。

2006年 ソウル「芸術の殿堂」ホールにて、梁邦彦氏とのクリスマス・コンサートに出演。

2009年 東京リコーダー音楽祭 2009(東京文化会館)に出演。

2010年 アントレ古楽コレクションズ ガラ・コンサート(カザルスホール)に出演。

その他、NHK 教育 TV「トウトウ・アンサンブル」「歌えリコーダー」への出演、バントマイムとの共演等、幅広く活動している。